令和6年度 久留米市文化財保存活用地域計画協議会

会議録 (HP)

1. 開催日時：令和7年3月26日（水） 14：00～15：30
2. 会 場：久留米市庁舎303会議室
3. 参加委員：赤司、矢次、吉田、松岡、段上、古賀、深山、松枝、立石、
4. 事務局：井上、白木、丸林、西本、神保、熊代、小川
5. 議 事

(1) 開会あいさつ（井上課長）

(2) 事務局からの報告

1) 令和6年度の事業報告

配布資料に基づき、事務局から令和6年度の事業について報告した。

委員) ヘリテージマネージャーは久留米市で育成していくのか

事務局) 今年度も福岡県から、久留米市内で研修に使える歴史的建造物はないか相談があり、対象物件の情報提供をしている。ヘリテージマネージャーの育成という面では、市が直接関わることはできないが、県と協力して進めていく。

委員) ヘリテージマネージャーというのは、建築士会が主催する1年間の講義や実習を受けて資格を取得するが、それだけではうまくいかないのが、実演を通して育成する必要がある。実績表には育成と記載されているが、現状は事業の紹介だけとのことなので、今後は県と協力しながら進めていく必要があると思う。

事務局) 基本的には福岡県の文化財部局で建築士会と話をしながら、ヘリテージマネージャー制度を作り進めていっている状況。県から情報を得ながら、協力していく。文言については内部で協議していく。

委員) 伝統技術把握とはどういうものか。

事務局) 伝統技術把握というのは、久留米絣だけではなく、藍胎漆器であるとか、今失われていこうとしているが、まだ把握ができていない技術について調査を進めていくというもの。久留米絣についても、手括りと天然藍染となげひの手織りという3つの指定要件があるが、その3つの要件だけではなく、久留米絣の技術の中に未指定の伝統技術があるので、把握を進めていく必要がある。

委員) 歴史遺産の情報集約と公開について、伝承のための映像は、記録を取っただけではなく、図書館や小学校、中学校に配布されることによって映像の保存にも繋がる。そのあたりをどう考えているか。

事務局) 民俗の伝統行事等の記録映像は、一般向けに祭りを記録したものがほとんどである。まだ事業として具体的にはなっていないが、例えば無形文化財として、久留米絣は後世に残すために、すべての技術がどのようなやり方でやられている

のかというのを細かく記録した動画を作っている。そうした考え方で、無形民俗文化財についても、記録を見て、この道具はどう作られてどういう使い方をされているのかを、ある程度復元ができるようなものを作っていく必要性があると考えている。

委員) 例えば、有償頒布という形で興味のある人が入手できるようにするとか、公共施設に配布する等、多くの人たちに見てもらふ必要がある。映像も表に出ないと役に立たない。どれだけ公開するかで、記録作成が実際に意味を持ってくる。保存しようとしても、それに理解を示してくれる人が多くいなければ保存は難しい。

事務局) 報告書は専門的で一般の方には難しく、映像の方がわかりやすい。記録したものは活用し、保存の機運を高めていくことを含めて考えていく。

委員) 説明板のメンテナンスはどうしているのか。

事務局) 説明板は、市内の多くの文化財に設置している状況で、板面の耐用年数が限られているので、毎年見回りをしながら、予算内で貼りかえの優先順位を決めて、計画的に貼りかえを行っているような状況。まだ追いついてないところもあるが、順次やっていく。

委員) 説明板こそデータベース化してはどうかと思う。

2) 筑後川遺産の情報発信事業について

配布資料に基づき、事務局から説明

質問なし

(3) 協議

1) 筑後川遺産構成遺産の追加について

配布資料に基づき、事務局から説明

委員) 「蒲池源蔵頌徳碑賛成員碑」の名称は、「蒲池源蔵頌徳碑建立賛成員碑」としてはどうか。

事務局) そのように修正したいと思う。

委員) 地元住民にも知られていないならば、説明版は必ず必要になってくるだろうと思う。また、イベント等で人々に知ってもらふ必要がある。

委員) 軟水醸造法について教えてほしい。

事務局) 城島の酒を作るときに、灘の職人を呼んでお酒を作ったが、当初それがうまくいかず、5年くらい試行錯誤を続けた。周りの醸造家たちが諦めていく中で、蒲池源蔵さんは、温度計を使うなど違いを研究し、根本的な違いは水であると結論づけた。灘の酒の硬度が7ぐらいで、こちらはもっと軟水に近い。灘のやり方では発酵しないため、その土地の風土に合った発酵方法を確立し、城島の酒の名が

全国に広まったという歴史がある。

委員長) 事務局から筑後川遺産構成遺産への追加について提案があったが、委員から異議がなければ、追加登録とさせてもらうがよいか。

委員) 異議なし

2) 筑後川遺産構成遺産の新規登録について

配布資料に基づき、事務局から説明

委員) 実を取るための櫨ですので、数年に1回、真っ赤に紅葉することがあるが、温暖化になって、紅葉の見栄えがあまり良くない。気候によっては、いいときもある。けしけし祭は3月22日に開催されたが、この会合には地元と森林センターからも毎回参加いただいている。紅葉が安定しない、あるいは紅葉しないような状況も出てくるが、文化財として守っていく必要がある。

事務局) 本当に櫨が綺麗なのは紅葉の時期だけなのかとの議論もあるが、青々とした新緑の時期もとても綺麗だし、四季折々で良さがある。さらに櫨の実を使った様々な活用方法がまだ残されている。そういったことも周知していきたいという考えをこの会では持っている。

委員) 登録にあたり、どういう体制で活用されていくのかが、非常に興味がある。高校生が積極的に関わっており、とても希望が持てる、いい体制だと思うが、柳坂曾根のすぐそばにある県の施設で、森林活用センターがあり、地元の方の理解が得られれば、この体制の中に協力関係機関として加えていただくような方法を検討していただけたらと思う。県にも正式に申し入れてほしい。

事務局) 以前、櫨の補植をする際に苗木を分けていただいた経緯がある。専門的な知識を有する方たちであり、良好な関係を保っていることから、ここに入っていたければ心強いので、団体の方とお話し、県と調整がついた際にはここに入れて、登録をお願いしたいと思う。

委員) 将来的に森林センターへ補植をできるような体制を作っていったらどうか。

事務局) 県にお願いをしていきたい。

委員) うきは市は構成遺産について了承しているか。

事務局) 了承している。

委員) 小郡市は入れないのか。

事務局) 申請団体が構成遺産として挙げているので、入れる方向で進めたい。構成遺産として入れることについて、小郡市に話をできるような状況ではある。

委員) 要件として建造物の建立時期は限定するのか

事務局) 建造物として厳密にどの時代のどこからどこまでというような考え方は持っていない。構成遺産については、櫨に関わるもので、団体の方から上がっているものとしているが、指定ではないので、活用の仕方は団体と話す必要がある。

委員) 平田家住宅は全部登録していくのか。

事務局) 構成遺産として残し、一緒に保存活用していきたいという考え。あくまで、平田家が行ってきたことについて構成遺産として見ていくというような考え方である。先ほどの筑後川遺産第1号-2号と同様に、登録を受けた後に推進プログラムを検討していく。今回は現存しているところを取り上げているが、今後調査して、新たに歴史遺産として追加事項が出てきた際には、その調査成果をもとに追加をしていく。今回の申請段階ではそこまで詰め切れていないため、今後検討していく。

委員) 蠟や櫛に次ぐ生産量であったという藍についてはどうか。

事務局) 藍も地域を代表する産物であり、ストーリーがある。久留米市内にはそういったものがたくさんあるので、それを支える団体を探すのが我々の仕事だと思っている。いろんな機会を通じて筑後川遺産を周知していくことによって、やってみようという団体を作っていく、探していくということをこれからも続けていきたい。

委員長) 「櫛の道」を新たに筑後川遺産へ登録するということでよろしいか。

委員) 異議なし

(4) その他

事務局から計画の中間見直し及び次回開催時期、委員改選について説明

(5) 閉会